２０１５年のアースデイ東京のキャッチコピーは
“Yes,Peace!” です。
そこで “Yes,Peace!” な社会を目指し、
第一線で活動する皆さんに、３つのテーマ
『エネルギー』『食と農』『経済』について聞いてみました。

Yes,Peace!

4月22日をアースデイとして、市民が中心となって環境を守る行動がはじまったのは1970年。今やアースデイは、宗派・民族・国家・信条・政党をこえて、世界175カ国、約5億人が参加する世界最大の環境ムーヴメントです。アースデイ東京は、自然・社会・文化・教育など、いろいろな課題にチャレンジするために、みんなが集まってつくる地球フェスティバル。
今年は戦後７０周年。今こそ、地球に暮らすひとつひとつの命が大切にされる、平和な世界へと変わる時です！“Yeas,Peace!”なアースデイ東京にあなたも参加しませんか？

※沖縄の過去と現在に想いをよせて。メインビジュアルは沖縄の版画家 名嘉睦稔（なかぼくねん）さんにお願いしました。
※またキャッチコピー“Yes,Peace!”をアースデイ東京の応援団長である歌手 加藤登紀子さんに書いていただきました。

感謝

ENERGY　“Yes,Peace!”な『エネルギー』を目指して

原子力のこれまで ――核は世界を放射能で汚染した!

テキスト：アースデイ東京2015 オフィシャル勉強会『エネルギー1』コーディネーター 安在尚人 (NPO法人世界ヒバクシャ展)

核兵器と原発は「双頭の鷲」ってどういう意味？

核兵器と原発は、ウラン鉱石の中のウラン235を濃縮して作られ、人類に大きな被害を及ぼしてきた「双頭の鷲」です。1945年に広島、長崎に原爆が投下された直後には、原爆の技術的完成によって、石炭、石油に替わる新たなエネルギー源が生まれたことが指摘されていました。

マーシャル諸島の核の墓場。原水爆実験でできたクレーターに、除染作業で出た死の灰が捨てられました。（撮影：豊崎博光）

「原子力の平和利用」で、平和になったの？

アメリカの働きかけによって、「原子力の平和利用」の名の下、日本で原発導入キャンペーンが始まった1954年、ビキニ環礁での水爆実験で第五福竜丸などが被曝しました。その放射性降下物は日本や世界をも覆い、その後も、度重なる大気圏内核実験や、チェルノブイリ、福島の原発事故などで、世界は繰り返し放射能汚染にさらされました。

年間1ミリシーベルトから20ミリシーベルトに。それって大丈夫なの？

一方、福島県では、甲状腺がんまたは疑いのある子どもたちが100人を超えています。それなのに、国は、放射線管理区域の約4倍にあたる年間20ミリシーベルトという緩い基準に基づき、避難区域を解除し、賠償を打ち切り、避難者の早期帰還を進めようとしているのです。

正しく判断するために、核の歴史を学ぼう！ Yes,Peace!

『エネルギー1』講師：
フォトジャーナリスト
豊崎博光さんの提案

福島原発事故を直視しよう！ Yes,Peace!

『エネルギー1』講師：
国際環境NGO FoE Japan理事
原子力市民委員会座長代理
満田夏花さんの提案

オフィシャルトークステージにて関連プログラムを予定してます。

自然エネルギーのこれから ――2016年、電力小売全面自由化がはじまります。

テキスト：アースデイ東京2015 オフィシャル勉強会『エネルギー2』コーディネーター シキタ純 (NPO法人ビーグッドカフェ)

もう、自然エネルギーの固定価格買取制度が見直されたの？

固定価格買取制度発足により、自然エネルギーによる発電が日本各地で勢いを増しました。しかし、その大部分（まだ計画値）を太陽光発電が占めたため、送電線の許容量を超えると、昨年9月に九州電力などが相次いで自然エネルギーの売電申込みに対する「回答保留」をはじめました。その後、経産省は「接続可能量」（送電線に接続することを認める量）を定め、固定価格買取制度の運用を見直すことにしました。

原発より、自然エネルギーを最優先するんじゃなかったの？

今回の見直しの背景には、いまは稼働していない原発を、ほぼすべて「ベース電源」として稼働するものとして計算に入れたという「驚くべき事実」があります。法律で定められた、自然エネルギーの「優先給電」は反故にされ、系統接続をされても「抑制」（運転を強制的に止める）ということが行われます。本当は、政府は自然エネルギーを最優先に固定価格買取制度の運用を行うべきなのです。

自然エネルギーが応援できないってホント？

2016年から日本でも電力の小売全面自由化がはじまります。つまり関東の人は、家庭の電力を東京電力からではなく他の会社から買えるのです。しかし！政府の審議によると、売る方の電気小売事業者はその電気が自然エネルギーの電気であっても、自然エネルギーであると明言して販売することが禁止されるかもしれません。あの手、この手で自然エネルギーの邪魔をする。とても理不尽じゃないですか？

電気小売事業者はしっかり選ぼうね！ Yes,Peace!

『エネルギー2』講師：
エナジーグリーン(株)
竹村英明さんの提案

FOOD　“Yes,Peace!”な『食と農』を目指して

食と農のいま ――農業の価値を知り、有機農業を広めるために。

テキスト：アースデイ東京2015 オフィシャル勉強会『食1』コーディネーター 鈴木亮 (国際青年環境NGO A SEED JAPAN)

大規模化は「やせ細る農業」だったの？

1961年、旧農業基本法の成立以来、日本は国策として「1000万円の所得を得る農業（8ケタ農業）」をめざし、単一化・大規模化農業を奨励してきました。しかしその結果は生産者にとっても消費者にとっても「やせ細る農業」でした。食料自給率は8割から4割へ、農業総産出額は11兆7千億円から8兆5千億円へ、農地面積は600万ヘクタールから450万ヘクタールへと減少しています。美しい田園風景や生き物たち、郷土料理や農村文化をこのまま失えば、未来の子どもたちがあまりに不幸です。いまこそ“Yes, Peace!”な『食と農』のあり方を探して、有機農業実践者とつながりましょう。

（出典）徳野貴雄『農村の幸せ、都会の幸せ ―家族・食・暮らし』日本放送出版協会、2007

アースデイ東京をオーガニックフェスに！ Yes,Peace!

『食1』講師：
アジア太平洋資料センター代表理事
コモンズ代表、ジャーナリスト
大江正章さんの提案

農業の価値にお金を払うひとはたったの5.4%って…

問題は「農業の価値を知り、再生産可能なまっとうな価格を払う消費者」が、わずか5.4%しかいないといわれていることです。ちなみに、健康志向の消費者は16.5%（上図）。首都圏でも屈指の環境イベントであるアースデイ東京をオーガニックフェス化して、“Yes, Peace!”な『食と農』のあり方を広めましょう。

これからの暮らし ――まずは「消費」のあり方を見直すこと。

テキスト：アースデイ東京2015 オフィシャル勉強会『食2』コーディネーター 西村ユタカ (アースデイ・アグロエコロジー・ネットワーク)

このままの消費生活でいいの？

「必要なものは作る。余るものは採らない。足りないものは補い合う。」という持続可能な暮らしが、いつしか「食べたいものを買う。採れるだけ取る。売れ残ったら捨てる。」という持続不可能な市場経済に依存した消費生活に陥っています。それが、環境から削り取り、弱者に皺寄せし、将来ヘツケを廻すグローバル企業に加担する行為であるのに、です。

食べ物はいつから「お金で買う商品」になったの？

2010年10月に名古屋で開催された第10回生物多様性条約締約国会議で合意された愛知ターゲットでは「人と自然の共生」が謳われています。そのためには、「衣食住」を生態系の環の中で賄わなければなりません。そもそも食べ物は「自然の恵みを分け頂く賜り物」であっただろうに、いつから「お金で買う商品」になったのでしょうか。

地球のために行動するなら？

地球のために行動するというのなら、まずはその前に地球環境を壊さない「消費」のあり方を見直し、実践すべきでしょう。それが何より他者を虐げない平和への第一歩であり、将来の子供たちへの最低限の償いでもあるのですから。

Yes,Peace!

食の自給力を高めよう！

『食2』講師：日本農業経営大学校専任講師
小口広太さんの提案

アースデイ・アグロエコロジー・ネットワークでは、アースデイ東京2015の2日間、自給力UPのアクションにつながる「アグロエコロジー的くらしの契約」のプログラムを用意しています。

ECONOMY　“Yes,Peace!”な『経済』を目指して

経済のいまとこれから――みんなが幸せになれる経済って？

テキスト：アースデイ東京2015 オフィシャル勉強会『経済』コーディネーター 田中滋（アジア太平洋資料センター(PARC)）

こんなに頑張ってるのに… 広がる格差、転げ落ちる不安。

今の時代、世界中で経済格差が広がり、貧しさに苦しむ人も増えています。しかもそれは、どこか遠くの国の話ではなく、身近なところまで迫っています。怪我をしてしまったり、家族の介護が必要になったり、会社が倒産したりと、不測の事態に直面して、正規、非正規を問わず、仕事を失う可能性はだれにでもあります。そんな不安に満ちた経済・社会のしくみが国内外でつくられています。

自由貿易の「自由」って、「奪う権利」が自由ってことなの？

こうした状況の中、さらに追い討ちをかけるようにTPPに代表される様々な貿易協定が結ばれようとしています。その多くは人びとの暮らしの安全・安心を守るものではありません。その本質は力を持つひと握りの人や企業が他者から奪う権利を保障するものなのです。どういう奪い方であればとがめられないのか？その内容を取り決めるものです。その先に待っているのは地球規模でお互いに奪いあう経済です。

東ティモールで豆の天日干しを行うフェアトレードコーヒー生産者一家

支えあいの経済って、どこではじまっているの？

フェアトレード、産直提携、地域の小商いの再評価など、奪いあいの経済でなく、顔の見える関係を通した支えあいの経済もすでに多くの地域で始まっています。決して夢物語ではなく、すぐそこで実現しているのです。アースデイ東京にはその実践者が多く出店しています。今年のアースデイをきっかけに、地球のどこからも奪わず、世界の人びとと手を取りあえる経済の実践を始めましょう！

弱肉強食の「経済のグローバルジャングル」で生き残るのに必要なのは強い牙ではなく、手を取りあうこと。不安に満ちた奪い合いの経済から脱却するためのオルタナティブをアースデイ東京で一緒に探しましょう！ Yes,Peace!

『経済』コーディネーター：
アジア太平洋資料センター(PARC) **田中滋さんの提案**

アジア太平洋資料センター(PARC) では世界中のだれも搾取することなく暮らせる仕組みを一緒に考えるトークステージを行います。

アースデイ東京の果たす役割は大きい。2001年からはじまったアースデイ東京のムーブメントは、週末の2日間で10万人以上が来場する日本最大の市民による環境イベントとなって、15年目となる。そして、毎年ここに集う市民こそが、これからのあるべき市民社会を映し出す役割を果たすはずであるし、そうあってほしい、と考えている。
2015年、いまだに私達の抱える社会的課題は多い。今年のアースデイ東京を迎えるにあたって、当初の実行委員会で課題の重要度からメインテーマを洗い出した。それが『エネルギー』、『食と農』、『経済』の３つである。まず、これを実行委員自らが学ぶ。そして4月18・19日の代々木公園で、参加団体それぞれが、３つのテーマのいずれかの解決策を来場者に発信する…。それをアースデイ東京のイベントの本質的な開催の意味合いとする、そう合意することができた。これは、アースデイ東京にとって、確かな前進だと感じている。
これをお読みの諸君、自らのライフスタイルチェンジと明日へのアクションを、ぜひ、私たちとはじめていただきたい。会場でお会いしましょう！

Yes,Peace!

アースデイ東京2015実行委員会 ファシリテーター／NPO法人ビーグットカフェ **シキタ純**

オフィシャルトークステージ「アースデイトーク2015」では3テーマ『エネルギー』『食と農』『経済』について学びます！（運営：アースデイ大学 協力：ソラトニワ）

Earth Day Tokyo 2015

さあ、”Yea,Peace!”なヒントとアイデアを探しに！アースデイ東京にGO!